

《問題提起》

散剤単独の分包に対する フィーは妥当なのか？

問題点

薬剤師の作業時間に対する評価は？
ランニングコストは？

現在の状況

平成18年度

■調剤にかかる作業の時間 錠剤半割や一包化薬などに対してフィーがついた



手間がかかる作業について評価された

平成20年度

■自家製剤加算に関しては、調剤日数に応じた算定（錠剤の半割に対し7日分20点）をするようになった



作業の時間に対し再評価された

しかし、手間がかかる散剤および
水剤の単独薬剤の調剤行為につ
いては、何ら評価を受けていない

現在の評価
(調剤報酬)は妥当か？

《方法》

調剤にかかる時間の 比較

錠剤・単独散剤・複数散剤

なぜ水剤ではなく、散剤なのか

小児科領域だけでなく、高齢者などにも多く見られる処方である

多くの薬局で調剤を行っている可能性が高い

分包機などハードへの設備投資や分包紙、印字用インクリボンなどランニングコストがかかる

従って、今回は散剤の調剤行為に関しタイムスタディを行った

調査方法

つぎに示すような、処方の調剤行為について必要な時間を調査する。各々の計測は、3回行い、その平均値を調剤時間とする。調剤時間は秒単位で表す。

調剤時間の定義

- ◆調剤時間は、調剤台の前に立ってから、調剤台を離れるまでとする。
- ◆鑑査システムがあれば、その使用時間および調剤後の確認（包数・異物の確認、薬剤の輪ゴム留めなど）も時間に含める。
- ◆鑑査や鑑査台への移動時間は含めない。

検討した処方内容①

処方1-1
A散 1.2g
3 x 毎食後 4日分
処方1-2
A錠 3錠
3 x 毎食後 4日分

処方2-1
A散 1.2g
3 x 毎食後 14日分
処方2-2
A錠 3錠
3 x 毎食後 14日分

処方3-1
A散 0.6g
B散 0.6g
3 x 毎食後 4日分

処方3-2
A錠 3錠
B錠 3錠
3 x 毎食後 4日分

検討した処方内容②

処方4-1
A散 0.6g
B散 0.6g
C散 0.6g
3 x 毎食後 4日分
処方4-2
A錠 3錠
B錠 3錠
C錠 3錠
3 x 毎食後 4日分

処方5-1
A散 0.6g
B散 0.6g
C散 0.6g
D散 0.6g
3 x 毎食後 4日分
処方5-2
A錠 3錠
B錠 3錠
C錠 3錠
D錠 3錠
3 x 毎食後 4日分

《結果》

単独散剤における処方日数と調剤時間

処方番号	調剤時間 (sec)	調剤時間差 (sec)
1-1 ^{a)}	92.9 ± 28.2 ***	81.9
1-2 ^{b)}	11.0 ± 5.9	-
2-1 ^{a)}	164.5 ± 41.7 ***	147.4
2-2 ^{b)}	17.1 ± 10.4	-

*** : 錠剤の調剤時間に対する Student's t-Test, P<0.001
a) : n=12, b) : n=10

散剤の調剤時間に及ぼす薬剤数の影響

処方番号	薬剤数	調剤時間 (sec)	調剤時間差 (sec)
3-1 ^{a)}	2	117.1 ± 44.2 ***	104.6
3-2 ^{b)}	2	12.5 ± 4.0	-
4-1 ^{c)}	3	145.8 ± 36.2 ***	107.6
4-2 ^{d)}	3	38.2 ± 20.8	-
5-1 ^{a)}	4	133.0 ± 13.2 ***	101.3
5-2 ^{b)}	4	31.7 ± 15.3	-

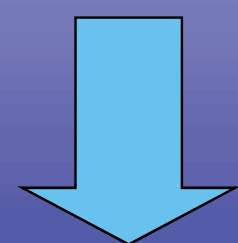
*** : 錠剤の調剤時間に対する Student's t-Test, P<0.001
a) : n=7, b) : n=5, c) : n=12, d) : n=10

分包機のランニングコスト

	商品名	長さ(m)/巻	定価(円)	1包幅(cm)	単位
湯山製作所	140M グラシン無地	425	6,650	7.0	1.09
	132M セロポリ無地	425	6,250	7.0	1.06
	140M セロポリ無地	425	9,750	7.0	1.61
	132M セロポリ無地	425	9,250	7.0	1.52
	70w グラシン無地	425	5,630	7.0	0.93
高園産業	70w セロポリ無地	425	8,400	7.0	1.38
	インクリボン TPR-5840M	400	4,750	7.0	0.83
	一包あたり平均コスト				2.09
高園産業	グラシン無地	360	5,000		1.11
	120H セロポリ20μ無地	300	6,900	8.0	1.81
	ダイヤマット20μ無地	300	6,900	8.0	1.81
	インクリボン TPR-1A	400	2,400	8.0	0.48
	一包あたり平均コスト				1.96

《考察》

錠剤と散剤の調剤にかかる作業時間は、
単独、複数の薬剤数に関わらず、錠剤
に比べ、80秒から140秒と有意に長か
った。



調剤料以外に何らかの
評価（フィー）が必要

具体的な評価

計量混合加算から のアプローチ

計量混合調剤加算 <特別の乳幼児用製剤以外> 散剤、顆粒剤	(内服薬、屯服薬、外用薬) 1調剤につき	45点
-------------------------------------	-------------------------	-----

450円を複数薬剤の混合時のフィーと考えて、450円を調剤時間で除する

$\frac{450}{\text{調剤時間差}} = \text{1秒あたりのフィー (円/秒)}$				
混合した薬剤数	2	3	4	平均
1秒あたりのフィー (円/秒)	4.30	4.18	4.44	4.31

単独散剤の調剤行為にかかるコスト

処方日数	4日間	14日間
1秒あたりのフィー (円/秒) x 調剤時間差 (秒) = 調剤行為コスト (円)	4.31 (円/秒) x 81.9(秒) = 353.0(円)	4.31 (円/秒) x 147.4(秒) = 635.3(円)

さらに、分包紙およびインクリボン代（2円/包）を加えると、
4日分は、353+24=377円
14日分は、635+84=719円

散剤と錠剤の調剤行為のフィーにはこのように正當に評価されていないものがあるのでは？